

## 「6日間の気付き」

社会福祉学部社会福祉学科 2年 森 千尋

活動先：NPO 法人 りんりん

クラス：原田 正樹 先生

1年生の11月くらいに2年のゼミを決めることになり、オリエンテーションで、他にも色々なゼミを見たり、話を聞いたりしたがどこもそんなに興味を持てるものがなく、迷っていた時に1年時のゼミの先生に「福祉の視野を広げたいなら、2年生でしかできないから、サービラーニングをやるといい」とアドバイスを受けたため第一希望でこのサービラーニングクラスを選んだ。

サービラーニングの活動をする前は、「NPO 法人」という言葉は聞いたことがあっても、どのような活動をしているのかも知らず全く無知の状態であったため、同じクラスの自分以外の学生は、地域福祉についてある程度知っているといった感じの人が多く、正直自分だけ何も知らなくてとても焦りを感じた。ゼミが始まり「NPO 法人」について学んでいくにつれて、ある程度の知識はついたが、実際の現場ではどのようなものなのかという想像は全くつかないままだった。そんな中で活動先を決め活動先について調べ、発表し活動先と顔合わせをした。気づいたらあっという間に活動まであと約2か月で、同じ活動先のメンバーと事前訪問に行った。初めてNPO 法人に行ったためすごく緊張していたが、とてもアットホームな感じの場所で自然が多いすごく良い環境だった。

特定非営利活動法人りんりんでは、8月19日・22～26日の計6日間お世話になった。主な活動内容としては、午前中はデイサービス、午後からは学童保育で活動を行った。自分は地元でボランティアをしていて子どもたちと関わることはあっても、高齢者の方々と関わったことがなく、デイサービスでは初めての体験ばかりだった。初日に職員の方に「利用者さんとお話してきてね」と言われたが、何を話していいのかわからずどうしようと思っていたが、利用者さんから話しかけてくれた。子どもの頃は何をして遊んでいたのか、若い頃の恋愛についても話してくれた。利用者さんたちのおかげで次の日からは利用者さんからではなく、自分から話すということができた。しかし、日が経つにつれて利用者さんの家庭の事情等を利用者さん本人から聞くことが増えた。信頼してもらえたから話してもらえていると思って嬉しいという気持ちはあったが、そのことを通じて自分はこの利用者さんのプライバシーを守らないといけないと自覚し、信頼してくれるのは嬉しいが「責任」というプレッシャーに負けそうになってしまった。毎日書くミニレポートに職員さんに困っていること、悩んでいることを記入する欄にそれについて記入した。りんりんのデイサービスの職員の方にアドバイスをいただいて、何とかプレッシャーに負けずにやりきることができたが、SWになったらそれが当たり前になるとまた改めて自覚した。一層責任を感じたがりんりんでの経験がすごくためになった。自分はまだまだ学ぶことがたくさんあるなと感じた。

もう一つの学童保育「りんごクラブ」では、子どもたちが本当に元気でデイサービスが終わって休憩している最中も「まだ来ないの～?」「早く遊ぼうよ!!」と声をかけてくれる子が多くて嬉しかった。りんごクラブの子どもたちは、外で元気よく遊ぶ子がとて

も多くて「良いなあ」と素直に感じた。最近の子どもが外で元気よく遊ぶという光景をあまり見なくなった。公園にいても DS などのゲームで遊ぶという光景の方がよく見るためとても新鮮だった。りんごクラブの先生と子どもたちの間でもしっかりと「信頼関係」が出来ていて、見てすぐわかる感じだった。子どもたちは元気でみんな良い子ばかりだったが、小学生の男の子たちは元気でやんちゃな子が多くて、危ないことをしていて学生の自分が注意してもなかなか聞いてくれなかった。しかし、りんごクラブの職員さんが注意するとすぐにやめたため、自分が子どもたちにした注意の仕方と職員さんの注意の仕方を比べてみると、自分は「危ないからやめなよ〜！」という感じだったが職員の方は、これをしたらどうなってどう危ないのかを子どもたちに言っていたため、子どもたちは理解して危ない行動をやめたのだと気づいた。ただ「危ない」と伝えても子どもには、なぜ危ないのかが分からないため、自分が注意してもやめなかったのだと学んだ。子どもたちからは、シュシュ（ヘアゴム）の作り方や花の蜜を飲ませてもらったりした。自然を使って遊ぶことも工夫すればどんな遊びにもなるということ、子どもたちは教えてくれた。

学生の企画も活動中に行った。ごんぎつねのゆかりの地ということでごんぎつねの人形劇を行ったが、これは完全に学生の自己満足で終わってしまい、もう少し考えるべきだったと反省した。もう一つの企画はりんごクラブの子たちにかき氷を振る舞うというものだった。これは、活動した時が夏だったため、とても喜んでくれた。

最終日の午前中に、瑞光の里にある「昭和喫茶」に連れて行ってもらった。ここでは利用者さんの食事補助を手伝ったり、コミュニケーションをとったりした。障害の程度が少し重い人たちの階にも行って昭和喫茶を行った。そこである男性の利用者さんに何かをほしいと言われたのだが、何を話しているのか全く聞き取る事が出来ずに何度も聞き直してしまい、最後まで聞き取る事が出来なかったため、近くいた職員さんが助けてくれどうにかなったが、男性の利用者さんには何度も聞き返してしまい、本当に失礼なことをしてしまったと反省している。しかし、この利用者さんは笑顔でゆっくり「ありがとう。頑張ってる。」と言ってくれて嬉しかった。そして、次に女性の利用者さんにまた何かを言われたのだが、これも聞き取る事が出来ず、その女性の利用者さんの隣に座っていた別の女性の利用者さんに「あんたは聞くこともできないのかね。何を学んでいるんだ！」と怒られてしまった。これについては、瑞光の里の職員さんが「まだ学生さんで、初めてここに来たのだから仕方ないことなんですよ。」と言ってフォローをしてもらったが、確かにこの利用者が言っていることは正しいと感じた。なぜなら何度も聞き返してしまうのは失礼なことであるし、その人たちの生活にいきなり入ってきたのだから怒られてしまうのもしょうがないと感じた。

サービスマーケティングの活動 6 日間は、嬉しいことや大変だったこと、辛いことがたくさんあったが、充実した 6 日間で NPO 法人について全くの無知だった自分が、実際に現場に行っても多くのことを実体験できたため、とても良い経験になった。サービスマーケティングで学んだことは、これから始まる実習でも役に立てたいと感じた。機会があればまた自分から積極的に NPO 法人に関わっていきたいと考えている。